

# 中山間地域道路等維持補修業務委託モデル事業検討会 vol.1

## ● 中山間地域道路等維持補修業務委託モデル事業検討会が設立されました！

### ＜検討会設立の主旨＞

道路の維持補修や除雪、河川の維持管理等は、地域の日常生活において必要・不可欠な業務であり、継続的に実施していかなければならないものです。

福島県では、道路等の維持管理業務を建設企業に委託し実施しております。近年、公共事業の予算が減少する中、地元の建設企業の経営状況が悪化し、従業員の雇用や土木機械の保有が困難になるなど業務委託の見直しが必要な状況となりました。このため、引き続き道路等を良好な状態に保つため、平成21年度から「中山間地域道路等維持補修業務委託モデル事業」として、年間契約や業務の一括発注など新たな発注方式をモデル的に試行してきました。

試行されてから3年が経過した本モデル事業について、有識者や道路利用者等による客観的な評価を得る必要があるため、「中山間地域道路等維持補修業務委託モデル事業検討会」が設立されました。

検討会を設立するに当たり、鈴木武男土木部次長（検討会会長）より下記5名の検討会委員に委嘱状が交付されました。

＜委員名＞ 奥本 英樹（福島大学経済経営学類准教授（企業経営））  
景山 耕造（福島県建設業審査会委員）  
井関 庄一（柳津町長）  
五十嵐 乃里枝（元三島町議会議員）  
船城 ミネ（金山町民生委員）

委嘱状交付の様子



## ● 第1回中山間地域道路等維持補修業務委託モデル事業検討会の開催概要及び今後の予定

### 【第1回モデル事業検討会の概要】

＜日 時＞ 平成24年7月11日（水）13:30～15:00

＜場 所＞ ふくしま中町会館6階 特別会議室

＜参加者＞ 検討会委員、検討会事務局など計16名

＜議 題＞

- ・モデル事業検討会の進め方について
- ・宮下土木事務所の管内概況及び建設企業の状況について
- ・従来方式による維持補修業務とモデル事業の内容について
- ・モデル事業検証の視点（案）について
- ・発注者と請負業者との意見交換会及びアンケート調査結果について

検討会の様子



### 【今後の懇談会開催予定】

#### 第2回モデル事業検討会

（平成24年9月上旬予定）

モデル事業の妥当性や改善点等について、色々な視点から検証を行います。

#### 第3回モデル事業検討会

（平成24年10月予定）

検討結果の確認・まとめを行い、今後の検討課題等について整理します。



## ● 検討会で委員の方からいただいた主な御意見及び御質問

### 1. 検討会の進め方について

- ・計3回という検討会において、何をどこまで検証するのかを明確したほうがよい。検証する項目を決めないと議論の集約ができなくなってしまう。
- ・良い点や改善点を検討するにあたって、エンドユーザー・建設業者・発注者等、誰の視点から見てのものなのかを明確にする必要がある。
- ・発注者側で、モデル事業について自信をもっている点や、改善が必要なのではと感じている点等を整理して提示して頂けると質問しやすい。

### 2. 宮下土木事務所の管内概況及び建設企業の状況について

- ・従業員数が減少している事に加えて高齢化が問題である。建設業界の技術の伝承ができなくなる可能性がある。専門的な能力を持っている技術者の状況を把握したほうが良い。
- ・宮下地区の建設業者の経営状態や規模が同程度である事が、モデル事業がうまく機能している要因であると思われる。
- ・公共事業予算がピーク時の半分だが、会員の受注高は5分の1に減少している。都市部と山間部の企業で差が出てきているのではないかと。

### 3. 従来方式による維持補修業務とモデル事業の内容について

- ・選定方法で、随意契約・一般競争入札・公募型プロポーザル方式とあるが、競争性・透明性とともに、利点や問題点についても考える必要がある。
- ・住民が納得できる仕組みづくりとは何かを念頭に置き検証する必要がある。評価項目も住民の視点になっているかを検証しなければならない。
- ・大雨による災害があった時に、被災箇所の特定や復旧作業を迅速だった。経験豊富な組合に対応してもらえる事は住民が安心できる方式だと思う。
- ・自然災害への対応はスピードが大事だが、その点でこのモデル事業は機能していたと思う。

### 4. モデル事業検証の視点(案)について

- ・検証項目の其々について、エンドユーザー、建設業者、発注者の立場から、評価できる視点を細かく作る必要がある。
- ・検証を行う際、地域独特の要因がかなり出てくると思う。他の地域への試行を考える場合は、その差異を明らかにする必要がある。
- ・第2回の検討会は、宮下地区独特の特性がどこにあるかが理解できるものとしたい。
- ・モデル事業は、宮下地区ならではの一体感があって成功している事例だと思う。
- ・町を守るという事に、モデル事業が大変貢献しているという点が明確になってくると良い。
- ・地域でモデル事業のようなしっかりした取り組みが行われれば、それが雇用につながる。
- ・発注者側のコストと受注者側の利益という経済性の検証と、他の地域への展開も考えた場合、競争入札との比較も必要である。
- ・宮下地区の地形は急峻で独特なものがあるので、除雪を行うにしても資格があればできる訳ではない。オペレータの育成や、若年層にとって魅力ある建設業界である事も大きな課題なので、この点についても検証して頂きたい。
- ・建設業者の立場では、複数年契約にすると計画を立てやすいと思われるので、その点も検証したい。

### 5. 発注者と請負業者の意見交換会及びアンケート調査結果について

- ・意見交換会の資料から、共同組合内でコミュニケーションが出来上がり成長している部分があると感じられる。
- ・県の入札制度において複数の入札方式が併存しているため出てくる問題もあるので、他のシステムとのすり合わせが必要となる。
- ・アンケートを行う場合は、評価項目に沿ってどのような質問を行うか検討し、質の高い調査を行い検証する事が必要である。調査対象者も性別や年齢等が偏らないようにする。
- ・福島の中山間地域と首都圏は同じでないという事を前提に仕組みづくりを行う。地元の人達のインフラに関する意見も聞いて、モデル事業がその改善にどう役立つのかを考える必要がある。



除雪作業の様子



道路補修作業の様子



土砂撤去作業の様子